



牧禎舎では、地元で使われてきた藍かめを用い、昔ながらの藍染を気軽に楽しめる藍染体験工房です。ぜひ「創る」愉しみを味わってください。

藍染の手順

1 糸や布を、藍の入ったかめに浸けます。



2 引き上げて軽く絞り、空気によく晒します。



3 1、2を繰り返します。その後、よく水で洗い流し、乾かします。



藍染は、空気にふれて藍が酸化することで青色に変化します。きれいに染めるためによく空気に晒すのがコツです。

藍を建てる

藍染の染料は、摘み取った藍の葉を発酵・熟成させた「すくも」です。すくもを水溶性の染料に還元・発酵させることを「藍建て」と言います。

藍かめに、灰汁・すくも・石灰・ふすま等を入れてよく混ぜ、10日間ほどで発酵が進み、しっかりした泡が立つと出来上がりです。



染め方いろいろ



・カゴ染め
2つのカゴで、生地を挟み込んで染める手法です。(牧禎舎ではネットを使用します)



・折り紙絞り
折り紙のように生地を畳み、輪ゴムで止めた部分が白く染め抜かれ、模様になります。



・つまみ絞り
生地を糸でぐるぐると巻き上げ、白く染め抜く手法です。



・クジャク絞り
1点から扇型に蛇腹じゃばらに畳み、数カ所を結びます。クジャクが羽を広げた模様になります。



・ビー玉絞り
ビー玉の上に生地をかぶせ、輪ゴムで止めます。ビー玉の大きさが印象が変わります。

お取り扱い方法

・藍染した布は水でよく洗い、一度乾かしてから再び水洗いしてください。

・保存には、日焼け防止のため丸めておくのがオススメです。

・洗濯時には、色移りを避けるため他のものと分け、すすぎを充分にし、陰干ししてください。

・摩擦などの色落ちが生じやすいため、白いものとの重ね着はお避けください。



藍について

藍染めに使われるタデ藍は、タデ科の1年生植物です。

ここ牧禎舎でもタデ藍が植えてあり、9月頃にアカマンマに似た愛らしい赤い花が咲くのをご覧になれます。



牧禎舎について

牧禎舎は「衾」の商標で足袋・被服の製造を行っていた牧禎商店が、創業に伴い昭和15年(1940)に建設した木造2階建ての事務所兼住宅と工場です。

工場は改装されていますが、落ち着いた佇まいの事務所兼住宅は、欄間なども見事で、戦前の住宅建築の様相を伝える貴重な近代化遺産と言えます。

